ダンジョン牝

トラップによりライオス一行とはぐれてしまったマルシルは全くもって運が悪かったと言わざるをえない…そして更に運の悪い事に普段なら大して脅威でもない森ゴブリン程度しかいない筈のこのダンジョンに何処からかタチの悪いゴブリンどもが流入していた事だ…
！
離しなさいよ！
ひゃあっ

最悪だったのは奴らが他種族にも欲情するという普通ならあり得ない性質を持ったゴブリンだった事…抵抗も空しく数に敗れ去り
マルシルも他の牝達と同様に為す術も無く貞操を奪われ陵辱され続ける事になる
うっ…うっ
うぐっ
んっ♥
んっ♥
グチュ
グチュ

奴らは群れをなしてマルシルを犯し続ける…一匹が果てても次のゴブリがいけり勃つペニスでマルシルを犯す…その次も…その次もマルシルの性器に欲望を吐き出し続けるようやく全てのゴブリンが吐き出す頃には最初のゴブリが回復して再びマルシルの牝穴を穿つ

果てる事のない陵辱にマルシルの牝穴は次第に馴染み、子種を搾り取るのに最適な動きをするように開発されて行く
幾日が過ぎたのか判らなくなった頃…
カポッ
オマンコいくっ…
ギュポ
イクッ♡
イクッッッッ！
マルシルの身体は自らゴブリンの子種を欲し、快楽とともに受けいる様になっていた―

マルシルはその後
通りすがりの剣士に
よって救出される事
になる―

その男は
凄まじい
強さで
ゴブリンを
屠り続け
瞬く間に
辺りの
ゴブリンを
一掃する

だが―他の魔物や狂乱の
魔術師に興味はないと言い
放ち、再びゴブリンを求め
てダンジョンを去っていっ
てしまった。

ゴブリンがマルシルに与えた瑕は決して小さくなかった…マルシルは種族の寿命差は子種の改良によって無くす事が出来る筈だと考えるようになり、魔法の力を駆使し、逆レイプまがいの行為を始めるようになってしまったのだ
あっ♡
はっ♡
いいんっ♡
止まらない……
ギュッ
ギュッ

チンポが
ドピュッ
してるう♡
ドピュッ
イッ…
イクッ♡
ドピュッ

チルチャックを次は
当然人間種である
ライオスにも魔法を使う
マルシル…ゴブリンに開花させ
られた肉体は、既に歯止めが効
かなくなっているのだ…

トールマンとの身体の相性は抜群であり、他の種族との交ぐ合いでは得られなかった多幸感に溢れてれていたのはマルシルにとって発見であった…
んあ♡
ずぷ
ずぷ
ぢゅぷ
ぢゅぷ
はぁ
やぁん♡
んっ♡
んっ♡

マルシルは先立たれると知りながら、なぜ母が父と結ばれる道を選んだのか…その理由を理解できた気がするのだった…